

CONSERVATION ALLIANCE  
FOR SEAFOOD SOLUTIONS

# 漁業改善プロジェクト支援のための ガイドライン

2021年1月改訂

保全団体と水産業界は、連携を通じて水産物の  
持続可能性および海洋生態系の健全性を改善す  
る強い力を発揮できる。

*[solutionsforseafood.org](https://solutionsforseafood.org)*



## 漁業改善プロジェクト支援のためのガイドライン

本書の目的は、漁業改善プロジェクトにおけるベストプラクティス(最善の手法)のガイドラインを定義することです。コンサベーション・アライアンスは、水産会社が漁業改善プロジェクトを支援し、持続可能な漁業実現に向けたコミットメント(責務)を果たせるようになるためには、漁業改善プロジェクトの枠組みおよびプロセスの標準化が極めて重要であると考えています。

### 目次

# 漁業改善プロジェクト支援のための ガイドライン

**コンサベーション・アライアンス・フォー・シーフード・ソリューションズ(コンサベーション・アライアンス)は、水産物の持続可能性の改善に向けた漁業の取り組みを支援しています。**

漁業管理や漁業に関わる環境問題への対処方法には、方針の転換、混獲低減など対象を絞った具体的な方策、様々な利害関係者が関わる漁業改善プロジェクト(FIP)と呼ばれる取り組みなど、様々な手法があります。本ガイドラインではFIPに重点を置いています。これらは全て有効な手法であり、持続可能な漁業の実現に向けた取り組みを支援する上で長期にわたり重要な役割を果たすものと考えています。

コンサベーション・アライアンスは2012年に「漁業改善プロジェクト(FIP)支援のためのガイドライン」を発表しましたが、これは将来にわたる継続的な改善を前提とするものでした。その後世界中でFIPの取り組みが大幅に増加する中、コンサベーション・アライアンスのコミュニティーや、産業界および漁業関係者からのフィードバックをもとに、FIPを取り巻く状況の進展に合わせてガイドラインをできるだけ明確にするため、2015年に改訂を実施しました。さらに2019年および2020年にも微修正を行いました。

コンサベーション・アライアンスは、漁業改善プロジェクトでは、漁業やそれに依存するコミュニティーや事業者が繁栄できるような高いレベルの持続可能性の達成に向けて努力することが重要であると考えます。全てのプロジェクトにおいて、対象漁業が最終的に海洋管理協議会(MSC)の認証規準を無条件で満たす水準に到達できるような取り組みが奨励されています。そのため、この水準への到達を長期的な目標とする漁業もあります。

「漁業改善プロジェクト支援のためのガイドライン」では、漁業の環境面における業績および漁業改善プロジェクトの長期的な進捗状況を評価するツールとしてMSC認証規準を活用しています。この認証規準は、認証取得を目指すかどうかにかかわらず全ての漁業が活用できます。全ての漁業改善プロジェクトの進捗状況を信頼できる同様の基準で評価することにより、コンサベーション・アライアンスのコミュニティーや、持続可能な水産物の実現に責任を持って取り組む事業者が、プロジェクトへの参加またはプロジェクトからの調達に関してより多くの情報をもとに決断ができるようになります。

漁業改善プロジェクトにおいては、対象となる漁業内に存在し得る人権侵害から労働問題、およびコミュニティーへの影響まで幅広い社会問題を調査するとともに、作業計画の中で取り組む問題に優先順位を付けることが奨励されています。コンサベーション・アライアンスは、社会的責任のある水産物の定義としてモントレイ・フレームワークを導入しましたが、これは以下の3つの重要な要素を含んでいます。

1. 人権や尊厳、およびリソースへのアクセスを保護する。
2. 平等性および公正な利益獲得の機会を保証する。
3. 食物および生活の安心・安全を向上させる。

[The Social Responsibility Assessment Tool for the Seafood Sector](#) (水産物業界向け社会的責任評価ツール)は、モンレー・フレームワークを基に策定された診断ツールです。このツールは小規模から産業規模まであらゆる規模の漁業改善プロジェクトにおいて活用が可能で、このフレームワークの3つの要素から漁業における社会問題のリスクを評価し、改善が必要な分野を特定するとともに、社会的責任を向上させるための行動を作業計画に織り込むことができます。このツールは漁獲漁業および養殖漁業両方に適用が可能です。

企業は事業を行う国が所管する法律により、そのサプライチェーン内における人身売買および現代奴隷法に関わる刑事、民事または規制上の責任を問われる可能性があります。そのためコンサベーション・アライアンスは、特定の地域におけるリスクに対処するための法律や労働条件、および他の選択肢に対する理解を助長するために、各地域の人権に関する専門家の助言を求めることを推奨しています(例:地域の労働組合や人権保護に関わるNGO、法律の専門家など)。

**コンサベーション・アライアンスは、水産業界やNGOコミュニティが漁業改善プロジェクトの進捗状況を確認するために活用できる信頼性の高い情報をまとめた公開ウェブサイトである[FisheryProgress.org](#)の作成を支援しました。**このウェブサイトはコンサベーション・アライアンスコミュニティのメンバーであるFishChoice (フィッシュ・チョイス)により運営されています。漁業改善プロジェクトの実施者は、6か月ごとにプロジェクトのデータを更新し、フィッシュ・チョイスのスタッフがその完全性および正確性を精査したうえで公表します。これによりユーザーがサイトから得る情報の信頼性を担保することが可能になりま

す。FisheryProgress.orgではプロジェクトの情報が一元化され、情報の閲覧方法も標準化されているだけでなく、フィッシュ・チョイスのスタッフがあらゆる情報を精査します。このためプロジェクトの情報は完全な形で閲覧でき、信頼性も高く、サイトパフォーマンスおよび報告に関する要件も満たしているため、コンサベーション・アライアンスは、漁業改善プロジェクトの実施者に対してFisheryProgress.orgへの情報提供を強く推奨しています。

### 漁業改善における水産物バイヤーの役割

コンサベーション・アライアンスは2008年に「持続可能な水産物に関する共通ビジョン」を発表しました。これは企業が持続可能な水産物に関する方針を策定し、実施するために必要な6つのステップをまとめた指針ですが、そのうちの一つは、小売業者、サプライヤーおよび加工業者が責任ある調達に関する決定を下すためのステップとなっています。このステップを踏むにあたっては、まだ持続可能な状態に達していない調達先から水産物を仕入れているバイヤーは、これらの調達先の持続可能性の実現に向けた活動を支援するために様々な方策を模索することができます。

例えば一つの方策として、調達先の漁業がバイヤーの持続可能な水産物調達方針で要求される基準を満たすようになるまで、これらの漁業からの水産物の購入を一時的に停止することがあげられます。コンサベーション・アライアンスは、この手法を実施するバイヤーに対して調達再開に向けて取り組むべき課題を対象となる漁業に伝えることを推奨しています。

他の方策としては、サプライヤーや生産者、および他の業界のパートナーを漁業改善プロジェクトに巻き込むことが考えられます。漁業改善プロジェクトでは改善に関する具体的な節目の目標や期限があり、その達成状況に関する説明責任を果たす必要があります。そのため、漁業の環境業績指標に一定の改善が見られなかった場合は、改善プロジェクトに関わるバイヤーおよびサプライヤーが、進捗の遅れに関する懸念を伝える必要があると考えます。さらにプロジェクトに

直接関わった後でも改善が見られない場合は、この漁業からの調達を中止し、その理由を伝えるよう推奨しています。

サプライチェーンを改善プロジェクトに巻き込むか、または問題を改善するまで調達を控えるかに関する決断は、バイヤーの考え方や企業の持続可能な水産物に関する方針に定める具体的な要件次第ですが、最終的な目標である海洋環境や水産物の供給に一定の有益な変化を引き起こす動機付けとなれば、どちらも妥当な手法と言えます。サプライチェーンを改善プロジェクトに巻き込むか、または問題を改善するまで調達を控えるかに関する決断は、バイヤーの考え方や企業の持続可能な水産物に関する方針の具体的な要件次第ですが、最終的な目標である海洋環境や水産物の供給に一定の有益な変化を引き起こす動機付けとなれば、どちらも合理的な手法と言えます。

## 漁業改善プロジェクトの定義

---

漁業改善プロジェクトとは、様々な利害関係者を巻き込んだ漁業における環境問題を解決するための取り組みです。民間部門の力を活用して漁業の持続可能性向上に向けた有益な変革を奨励するとともに、管理方針の転換を通じてこのような変化が継続されるように努めます。\*

\* 持続可能性のさらなる側面を考慮するため、次回のガイドラインの大幅な更新時に漁業改善プロジェクトの定義を拡大します。



## 漁業改善プロジェクトの定義

---

漁業改善プロジェクトに求められる主要要素および条件は以下の通りです。



### 参加

漁業改善プロジェクトでは、改善の意欲を高めるために市場のカーサプライヤーや小売業者、外食産業、および漁業者をはじめとする水産業界などを活用することが必須となります。具体的にはサプライチェーンを構成する企業の積極的な参加が不可欠ですが、その他にも政府や漁業管理者、およびNGOなども重要な参加者となります。参加の形としては、プロジェクトに対する出資または現物支援、作業計画で定める活動への取り組みがあります。



### 公約

参加者は対象となる漁業に対して(直接または現物による)出資を行い、改善の実施を公約しなければなりません(例:覚書や参加者リストの公表など)。



### 目標

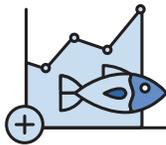
漁業改善プロジェクトでは、プロジェクトの短期的な活動範囲を定義し、期限付きの目標を定めなければなりません。コンサーベシヨ

ン・アライアンスは漁業改善プロジェクトに対して、下記の表にあるような環境に関する目標設定に加えて、漁業内における社会的な課題に取り組むための目標設定も検討するよう働きかけています。



### 作業計画

漁業改善プロジェクトでは、関連する予算および期限を定めた作業計画を策定し、実行しなければなりません。この計画は、漁業がプロジェクトの目標を達成するために必要な改善項目に取り組むために策定されます。作業計画およびその期限は公表が義務付けられていますが、予算については公表の必要はありません。



### 進捗状況の追跡および報告

漁業改善プロジェクトでは、定期的に進捗状況を確認し、以下の報告をしなければなりません—1) 活動内容の進捗および結果を証拠資料と共に6ヶ月ごとにFisheryProgress.orgなどで公表する。2) 各指標の得点を更新し、得点変更の理由を裏付ける証拠資料を12ヶ月ごとに提出する。全ての漁業改善プロジェクトは、時間の経過とともに進展していくことが期待されています。

## 簡易 (BASIC)および包括的 (COMPREHENSIVE)漁業改善プロジェクト

---

コンサベーション・アライアンスは、漁業改善プロジェクトを2段階で定義しています。

簡易FIP	包括的FIP
漁業が特定の環境課題への取り組みを始めるのに適した入門レベルのプロジェクトです。	漁業が高いレベルの持続可能性を達成するために必要な幅広い環境課題に取り組むことを目的としています。

簡易FIPと包括的FIPの主な違いですが、作業計画の策定や目標、および必要な検証の報告に関して設定される範囲の基準が異なります。

コンサベーション・アライアンスは、新たに改善プロジェクトを策定する漁業に対して、**包括的なモデルを模索するよう働きかけています**。また簡易FIPの実施者に対しては、将来的に包括的FIPへの移行を奨励しています。

## 簡易漁業改善プロジェクトおよび包括的漁業改善プロジェクトの主な違い

簡易FIP	包括的FIP
<b>範囲の設定(スコーピング)</b>	
<p>簡易FIPでは、環境課題を特定するためにMSC認証規準に基づきニーズ評価および範囲設定に関する文書(方法書)を策定します。ニーズ評価では、MSC認証規準の3つの原則からそれぞれ少なくとも一部の指標を取り入れなければなりません。この方法書は、公表が義務付けられています。</p>	<p>包括的FIPでは、予備審査および範囲設定に関する文書(方法書)の策定には、MSC認証規準*を適用した経験のある関係者が関わります。この方法書は、公表が義務付けられています。</p>
<b>目標</b>	
<p>MSC規準に基づき業績改善を目指して、漁業に関わる特定の環境課題に取り組むための期限付き目標を設定します。</p>	<p>MSC規準を無条件で満たす業績レベルを達成するために必要な、漁業に関わるあらゆる環境課題に取り組むための期限付き目標を設定します。</p>
<b>監査を通じた進捗状況の検証</b>	
<p>プロジェクトにおける活動結果および業績については、MSC規準に基づく独立した監査員による対面監査を推奨していますが、簡易FIPでは義務付けられていません。</p>	<p>包括的FIPでは、3年ごとにMSC規準に基づき活動結果および業績について対面監査を受けなければなりません。監査はMSC規準の適用経験があり*、FIPを実施する組織から独立した関係者が担当します。</p>

\* MSC規準の適用経験のある関係者とは、MSCの登録技術コンサルタントや認定認証審査機関、またはFisheryProgress.

orgの基準を満たす**適格性**を有する個人や組織を指します。

## 漁業改善プロジェクトのプロセス

---

漁業改善プロジェクトの進捗に関しては、以下のように5つのステージ(段階)および4つのステータス(状況)に関する定義があります。改善に向けた道のりは必ずしも直線的とは限らないため、これらのステージやステータスに関する説明は、様々な団体や企業が改善プロジェクトを評価し、活動への関与や調達に関する意思決定を下すのに役立ちます。

## 漁業改善プロジェクトのプロセス

---

### ステージ

0

#### 漁業改善プロジェクトの特定

このステージでは、漁業改善プロジェクトを通じて恩恵を受ける可能性がある対象漁業を特定し、サプライチェーンの分析を通じて漁業に関わる他の関係者、および現在の市場影響力を把握します。

### ステージ

1

#### 漁業改善プロジェクトの策定

このステージでは漁業の業績をMSC認証基準に照らして評価するとともに、プロジェクトに参加する利害関係者を募集します。FIPの策定段階における活動内容は以下の通りです。

##### 漁業の環境面における業績の評価。

- 簡易漁業改善プロジェクトでは、漁業における環境課題および必要な改善点を見極めるために、MSC規準の3つの各原則の指標の少なくとも一部を含めたニーズ評価を実施することになっています。しかし将来的に包括的プロジェクトへの移行を見込んでいる場合は、可能であればMSC規準の全指標を簡易プロジェクトのニーズ評価に含め、MSC予備審査をニーズ評価として実施するよう検討することを推奨します。
- 包括的漁業改善プロジェクトでは、対象漁業がどの分野においてMSC規準を満たしていないかを把握するためにMSC予備審査を実施することになっています。予備審査は、MSC規準を適用した経験のある関係者により実施されなければなりません(例:MSCの登録技術コンサルタントや認証審査機関、または[FisheryProgress.org](https://www.fisheryprogress.org)の基準を満たす適格性を有する個人や組織など)。

- 漁業改善プロジェクトでは、環境課題の評価に加えてモンレー・フレームワークの3つの原則に基づく社会的リスク評価の実施も推奨しています。またこの評価を実施するにあたり、社会的責任評価ツール (the Social Responsibility Assessment Tool) のようなリソースも活用できます。

## 方法書の作成 (スコーピング)

方法書にはニーズ評価や予備審査の結果の概要とともに、漁業が抱える課題に取り組むための推奨方策がまとめられており、公表が義務付けられています。包括的漁業改善プロジェクトでは、MSC規準の適用経験のある関係者が、方法書を作成または監査することになっています(例: MSCの登録技術コンサルタントや認証審査機関、[またはFisheryProgress.orgの基準を満たす適格性を有する個人や組織](https://www.fisheryprogress.org/)など)。

注記: ニーズ評価またはMSC予備審査の中で評価結果および漁業の課題に取り組むための推奨方策がまとめられている場合は、追加で方法書を作成する必要はありません。

## 利害関係者のマッピングおよびエンゲージメントのプロセス

どの関係者が漁業改善プロジェクトに最も関連があるかを特定します。プロジェクトにより影響を受ける可能性がある、または漁業における環境課題解決のため変化を起こす役割を担う幅広い利害関係者について検討します。さらに、行政の代表者および業界関係者(漁業者、加工業者、輸出者、サプライチェーン内の関係者およびエンドバイヤーなど)、環境および社会的NGOや科学コミュニティなども含めて、漁業改善プロジェクトに参加する必要がある関係者を見極めます。

漁業改善プロジェクトに対しては、参加者を追加するプロセスの透明化を促しています。また策定段階のプロジェクトにおいては、同じ漁業内で

別の漁業改善プロジェクトが存在するか確認するとともに、現在の取り組みとの重複を避けるために可能な分野での協働も推奨しています。同一漁業内で別の活動中プロジェクトまたはプロジェクト候補が存在するかを確認するには、FisheryProgress.org を参照してください。

## ステージ

2

### 漁業改善プロジェクトの立ち上げ

このステージでは、プロジェクトの参加者と作業計画を最終的に決定し、公表します。内容は以下の通りです。

**プロジェクトの参加者の確認。**漁業改善プロジェクト参加者のリストを公表します。また、参加者の役割に関する詳細情報を記載した覚書を公表することもできます。

**参加者による会議。**漁業改善プロジェクトの参加者が直接集まり、漁業審査に関して議論し、行動指針を決定します。

**作業計画の策定。**審査結果や方法書、および参加者からのフィードバックに基づき、目標を達成するために必要な、取り組みが不十分な項目の是正を促進する活動を実施するための作業計画を策定します。包括的プロジェクトの場合、この作業計画はMSC規準の適用経験者と共に策定する必要があります。

作業計画は以下の項目を含まなければなりません。

- **目標。** 目標に対する推奨活動期間は5年(以内)です。簡易プロジェクトでは、MSC規準に基づき漁業の業績を改善するために、ニーズ評価(簡易審査)において浮き彫りになった特定の環境課題に取り組むことを目標としています。一方、包括的プロジェクトにおいては、MSC規準を無条件で満たすレベルの持続可能性を達成す

るために、漁業における全ての環境課題に取り組みます。さらに全ての漁業改善プロジェクトに対して、トレーサビリティおよび社会問題への対処なども目標の一部として取り組むことを推奨しています。

- **行動リスト。** ニーズ評価や予備審査において特定された課題に対処するためにやり切らなければならない主要な活動のリストです。作業計画には、活動をより具体的な段階に分解し、その達成方法を説明したタスク(詳細な作業内容)を記載することも可能です。
- **責任者。** 各行動を最後までやり切る責任を負う組織や個人。
- **期間。** 各行動やタスクを完了するのに必要な推定期間 (例:2015年1月-6月)。
- **関連予算。** 予算は少なくとも漁業改善プロジェクトに関わる一連の主要経費および収益を含み、毎年更新する必要があります。

このステージにおいては、作業計画を公表するとともに、予算も参加者により承認を受ける必要があります(予算の詳細については公表の必要はありません)。また作業計画策定の際には、漁業が計画通り改善を進める能力に影響を与えうるリスクの評価を推奨しています。

## ステージ

3

### 漁業改善プロジェクトの実施

FIPの実施段階では、対象漁業は問題点の改善に向かって活動を開始するとともに、進捗状況の追跡も始めます。

このステージには以下の内容が含まれます。

**作業計画中の活動やタスクの実施。** 監督者と連携してこれらの活動に一貫して取り組みます。

**進捗状況の追跡および報告。**簡易および包括的漁業改善プロジェクトでは、作業計画の進捗状況を以下のように自己報告します。

1. 作業計画中の行動およびその結果に関する進捗状況を、証拠書類とともに6か月ごとに公表します。
2. 12か月ごとに指標の得点を更新し、得点変更の妥当性を裏付ける証拠を提出します。

FisheryProgress.orgに掲載される漁業改善プロジェクトの報告に関しては、FishChoice(フィッシュチョイス)のスタッフが公表前に完全性および正確性の観点から、進捗状況報告書の精査を行います([詳細についてはFisheryProgressのレビューガイドラインを参照のこと](#))。FisheryProgress.orgに掲載されているFIPが6か月ごとの報告書を2回連続で提出しなかった場合は、休止プロジェクトとみなされます。この場合、FisheryProgress.org上で再び活動中の状態に復帰するためには、報告書を完全に改訂する必要があります。

包括的漁業改善プロジェクトでは、活動の結果およびMSC規準に基づく業績(例:漁業方針、漁業管理または漁業慣行の変化、最終的には漁業の健全性)に関して、3年ごとに独立した対面監査を実施しなければなりません。この監査は、MSC規準の適用経験があり(例:MSCの登録技術コンサルタントや認証審査機関、またはFisheryProgress.orgの基準を満たす適格性を有する個人や組織など)、漁業改善プロジェクトを実施する組織から独立した関係者が実施します。

**必要に応じて計画を修正する。**漁業改善プロジェクトにおいて特定の期限内に作業計画に定められた行動目標を達成出来ない場合は、その理由を報告し、行動計画および期限を修正して作業計画に反映させなければなりません。

## ステージ

4

### 漁業の慣行または漁業管理における改善

このステージでは、漁業改善プロジェクトにおいて作業計画の実行を通じて実証された改善内容を文書にまとめます。このステージにおける改善事項は以下の通りです。

**方針または管理の改善、または漁業慣行の見直し。**

**管理または情報に関するMSC業績指標の得点の向上。**

## ステージ

5

### 海洋環境の改善

このステージでは、漁業改善プロジェクトにおいて海洋環境で実証された改善を文書にまとめます。このステージにおける改善事項は以下の通りです

**成果に関するMSC業績指標の得点の向上。**

**海洋環境の検証可能な変化。** 漁獲係数の低下や対象種の資源量増加、生息域への影響の低減など。

注記: ステージ4と5は必ずしもこの順番通りに進むわけではありません。この2つのステージでは、それぞれ2つの異なる結果から漁業改善プロジェクトを評価しますが、それぞれの漁業改善プロジェクトにおいてこの2つのステージを必要としない可能性があります。

## 漁業改善プロジェクトのプロセス

---

### ステータス

#### プロジェクト候補

ステージ0 (FIPの特定) またはステージ1 (FIPの策定) の段階にある漁業改善プロジェクトは、FisheryProgress.orgにプロジェクト候補として最大12ヶ月掲載することができます。プロジェクト候補の掲載は、企業がどのプロジェクトに参加するかを特定するのに役立つだけでなく、同じ種や地域を対象としたFIPの策定重複を防ぐ意図があります。さらにステージ2 (FIPの立ち上げ) を完了したFIPは、FisheryProgress.org上で活動中プロジェクトとして掲載することができます。

#### 活動中 / 完了 / 休止プロジェクト

ステージ2 (FIPの立ち上げ)、ステージ3 (FIPの実施)、ステージ4 (漁業慣行または漁業管理の改善) およびステージ5 (海洋環境の改善) に取り組むFIPは、以下の状況が発生するまでFisheryProgress.orgにおいて活動中プロジェクトとして掲載されます。

1. プロジェクトが終了し、目標の達成を示す[独立した証明書類](#)を提出した場合、以後は完了プロジェクトとして掲載されます。
2. 目標を達成しないまま活動の中止を報告した場合、以後は休止プロジェクトとして掲載されます。
3. 6か月ごとの報告を2回連続で提出しなかった場合、以後は休止プロジェクトとして掲載されます。
4. ステージ4 (漁業慣行または漁業管理の改善) またはステージ5 (海洋環境の改善) の結果を3年以内に報告しなかった場合、以後は休止プロジェクトとして掲載されます。

FisheryProgress.orgは、コンサベーション・アライアンスのコミュニティが策定したFIPのステージ1 (FIPの策定) またはステージ2 (FIPの立ち上げ) で活用できるテンプレート一式を提供しています。

## 漁業改善プロジェクトの支援

---

漁業改善プロジェクトへの支援を通じて、より多くの水産事業者に既存プロジェクトへの参加を促すとともに、環境問題を抱える他の漁業を改善する新たなプロジェクトに対するバイヤーおよびサプライヤーの需要を喚起することができます。





## 漁業改善プロジェクトの支援

---

漁業改善プロジェクトへの支援を通じて、より多くの水産事業者に既存プロジェクトへの参加を促すとともに、環境問題を抱える他の漁業を改善する新たなプロジェクトに対するバイヤーおよびサプライヤーの需要を喚起することができます。

### 漁業改善プロジェクトの支援

漁業改善プロジェクトの支援には様々な方法があります。コンサベーション・アライアンスは、プロジェクトの公表を一元化するために、漁業改善プロジェクトに対してFisheryProgress.orgへの掲載を強く推奨しています。これにより水産事業者およびその他の関係者にとって、各漁業改善プロジェクトのステージとステータスの確認が容易になり、プロジェクトへの支援、またはプロジェクトからの調達に関する意思決定を下しやすくなります。またコンサベーション・アライアンスのコミュニティ

一、特にNGOはFisheryProgress.org上で情報の評価が可能になり、企業はプロジェクトへの参加またはプロジェクトからの調達に関する最終的な決断を下すことができます。

### 漁業改善プロジェクトへのアライアンスによるサポート

コンサベーション・アライアンス・フォー・シーフード・ソリューションズは、環境課題の解決に取り組む全ての漁業改善プロジェクトを高く評価しています。そしてこのような重要な取り組みを認識するために、少なくともこのガイドラインに示されている簡易プロジェクトの基準を満たしている漁業改善プロジェクトに対して、その情報をFisheryProgress.orgに提供するよう促しています。

漁業改善プロジェクトがFisheryProgress.orgに掲載されるためには、最低でも簡易プロジェクトの基準を満たすとともに、ステージ2 (FIPの立ち上げ)に到達する必要があります。簡易または包括的プロジェクトの基準を満たす目標を掲げるステージ0またはステージ1の段階にある漁業改善プロジェクトは、このウェブサイト上に最長で12ヶ月間「漁業改善プロジェクト候補」として掲載されますが、それ以降も掲載を継続するためには、ステージ2に進まなければなりません。またFisheryProgress.org に提供された漁業改善プロジェクトの情報はFishChoice (フィッシュチョイス)のスタッフが精査し、簡易または包括的プロジェクトの基準を満たしているかを評価するとともに、プロジェクトのステージを検証します。

### 事業者の意思決定

FisheryProgress.org上のFIPのプロフィールなどで公表されている情報の確認・検討や、NGOパートナーとの協議を通じて、企業は漁業改善プロジェクトに様々な方法で関わるすることができます。

- ・ 出資や現物支援、およびプロジェクトの活動への取り組みを通じた漁業改善プロジェクトへの参加。

- ・ 漁業改善プロジェクトの事務局や政府・自治体の代表者、またはサプライヤーに対し、支援表明の手紙を送る。
- ・ 漁業改善プロジェクトのサプライチェーンに対して、プロジェクトへの参加を促す、または漁業改善プロジェクトに積極的に取り組む漁業から調達する。

FIPからの調達や企業のFIPへの関与を推奨する基準は、コンサベーション・アライアンスのコミュニティーメンバー間で異なります。トレーサビリティを含む包括的プロジェクトの基準を満たし、活動の進展が見られるプロジェクトに関わる漁業は、調達先として推奨される可能性が最も高くなりますが、簡易プロジェクトに取り組む漁業も調達先としてメンバーから推奨される可能性があります。

### 進展が大きな意味を持つ

さらに調達に関する意思決定は、作業計画中の活動の進捗状況や、その成果に関する報告の内容にも左右されます。多くの企業やNGOが活用する漁業改善プロジェクトの進捗状況を評価する重要なツールとして、[FIP Progress Ratings](#) (FIP進捗状況評価)があります。これはサステナブル・フィッシュeries・パートナーシップにより開発されたツールで、評価結果はFisheryProgress.orgにより精査され、このウェブサイトに掲載されます。

ここで鍵となるのは、漁業改善プロジェクトにおける明確なコミュニケーションと報告です。作業計画に規定された活動の達成期限を守れなかった場合は、その理由の報告と、目標達成のための新たな計画の提出が求められます。漁業改善プロジェクトでは、たとえ達成期限に間に合わない活動があったとしても進めていくことは可能ですが、絶えず期限が守れない場合や、環境面で一定の改善が見られない場合は、漁業改善プロジェクトに対する支援が打ち切られる可能性もあります。

注記:本ガイドラインで使用されている用語集などの詳細は、[solutionsforseafood.org/projects/fishery-improvement](https://solutionsforseafood.org/projects/fishery-improvement)をご参照ください。